

<職員自主調査研究部門優秀賞・草津市職員坂居雅史様の声>

私の調査研究は、男女格差の是正における国際基準と自治体政策のギャップについて明らかにし、今後の自治体政策の方向性を探るものでした。調査研究のきっかけは、自治体の男女共同参画推進の担当者として感じた憤りと諦念の原因を探り、それを文章化してできるだけ多くの人と共有してみたいとの強い思いでした。

私の場合、夜間に大学院に通いながら自主的に行った調査研究でしたが、今回の受賞をきっかけとして市長や副市長からも高い関心を寄せていただくこととなり、ニュースレターの掲載等にもつながったので、このたびの受賞はとても有意義なものとなりました。

概して自治体職員が個人的な関心ごとに対して調査研究を行うことは後ろめたいものとなりがちです。しかし、このように大きな後ろ盾となりえる伝統ある法人から御支援いただけるということは非常に励みになります。一人でも多くの方がこの CR-1 グランプリをうまく活用されることを切に願っています。

<「女性差別撤廃をめぐるグローバルスタンダードと国内政策との乖離—自治体は当事者ニーズにどう応えるのか—」 「龍谷大学学術機関リポジトリ」(下記 URL) にて公表中>

<http://repo.lib.ryukoku.ac.jp/jspui/handle/10519/964>

職員自主調査研究部門 優秀賞

「女性差別撤廃をめぐるグローバルスタンダードと国内政策との乖離

—自治体は当事者ニーズにどう応えるのか—

坂居 雅史（草津市所属）

月尾嘉男東京大学名誉教授による講評

男女格差を測定する指標において、国際社会での日本の位置はきわめて格差のある後進国家となっている。この実態を草津市について調査するとともに、滋賀県内の全自治体と比較して、格差が発生する原因を究明し、十分ではないものの解消していく方向を提示していることを評価する。

研究期間	2009年4月～2010年7月	
研究の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進条例の意義と現在のフェーズの確認をする。 ・自治体における男女共同参画行政の将来ビジョンと具体的な取り組みの方向性を提示する。
	結論・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者ニーズ偏重型の政策から当事者ニーズ重視型の政策への転換を行う。 ・そのために果たすべき自治体の役割は下記の通り。 ①ロールモデルとしての役割 ②コーディネーターとしての役割 ③当事者目線の相談役としての役割 ④政策論議の提起の可能性
	研究の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・実務担当者による条例策定過程の再検証 ・全国の男女共同参画推進条例の内容と比較分析 ・多分野・多業種の関係者からのヒアリングに基づく現場目線からの研究
	現状・課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・世界と比較するとわが国は「女性差別」に対する認識が甘い。 ・自治体職員の多くが男女共同参画政策に対する不安感を持っている。 ・社会教育を重視した男女共同参画政策には手詰まり感がある。
	手法	<ul style="list-style-type: none"> ・草津市男女共同参画推進条例の策定過程の検証 ・滋賀県内の全自治体の男女共同参画推進条例の内容比較・分析 ・全国の特徴的な男女共同参画推進条例の内容比較・分析 ・関係者へのヒアリング調査 ・龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースを通じてのブラッシュアップ
	その他の内容	<p>「龍谷大学学術機関リポジトリ」にて公表中 http://repo.lib.ryukoku.ac.jp/jspui/handle/10519/964</p>

※研究の概要は応募者が作成したものです。

第3回都市調査研究グランプリ （CR-1グランプリ）

当センターでは、平成24年度に、第3回都市調査研究グランプリを実施した。ここでは、グランプリ及び優秀賞を受賞した調査研究事例について概要と選考委員の講評を紹介する。また、第4回都市調査研究グランプリの概要についてもお知らせする。

1 都市調査研究グランプリとは

地域の実情にあった都市の政策や地域に根差した職員の活動が更に求められるなか、都市自治体や都市自治体職員の調査研究能力の向上は重要な課題となっている。互いに競い合うことによるモチベーションの向上や優秀な調査研究情報を共有することによる調査研究能力向上を目的として、当センターでは、都市調査研究グランプリ（以下、「CR-1グランプリ」という。）を実施しており、今年度で第3回¹を迎える。

CR-1グランプリにおいては、全国の都市自治体が行った調査研究（以下、「自治体実施調査研究」という。）と都市自治体職員が自主的に行った調査研究（以下、「職員自主調査研究」という。）の2部門を設けている。選考の結果、全体を通じて最も優秀と認められたものにグランプリ、各部門ごとに優秀と認められたものに優秀賞を授与している。

2 第3回CR-1グランプリ応募状況

応募期間は平成24年7月2日から9月18日までとし、応募総数は、21団体26件（第2回は23団体26件）となった。応募団体の内訳としては、自治体実調査施研究部門は10件²（第2回は13件）、職員自主研究部門は11団体16件（第2回は11団体13件）であった。

3 第3回CR-1グランプリ選考方法

当センター研究室が一次選考を行い、月尾嘉男東京大学名誉教授（元地方制度調査会委員、専攻 メディア政策・システム工学）を選考委員に委嘱³し、その中から各部門の優秀賞とグランプリを選考した。

選考基準については、都市自治体（職員）が行う調査研究であり、研究目的は大学などの研究と相違して、地域の行政活動に貢献することを基本とするから、現状の分析のみではなく、それを基礎にして提言される具体施策の内容が重要との視点を持ち、次の4点に重点を置くこととした。

¹ 募集内容は本号77～78ページの募集要項及び応募用紙を参照

² 自治体実施研究の応募は1都市1応募としている。

³ 選考が終了するまでの間は公平性を期すため審査委員は非公開

- ① 調査研究の内容が行政の政策・施策にどの程度反映されている（できる）か。
- ② 地域の実情や課題を正確に把握しているか。
- ③ 研究課題、手法などに独創性が見られるか。
- ④ 都市自治体職員の力で調査研究しているか。

4 第3回CR-1グランプリ選考結果⁴

調査研究の名称	受賞団体及び受賞者
【グランプリ 1件】	
臨境都市・福岡の国際交通の拡充に関する研究 Research on Enhancing International Passenger Transport of Fukuoka, The Border City of Japan	福岡市所属 青山 航
【自治体実施調査研究部門 優秀賞 2件】	
アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方について	盛岡市
定住人口の増加策について	春日部市
【職員自主調査研究部門 優秀賞 2件】	
女性差別撤廃をめぐるグローバルスタンダードと国内政策との乖離 —自治体は当事者ニーズにどう応えるのか—	草津市所属 坂居 雅史
再任用職員の高い就業意欲とその有効な活用 —組織コミットメントの多次的把握による就業意欲要因の分析—	所沢市所属 新藤 良則

5 第3回CR-1グランプリ表彰式

平成25年2月26日に日本都市センター会館にて表彰式を執り行い、受賞団体（者）には、月尾選考委員から賞状が授与された。また、表彰後の月尾選考委員と受賞者との懇談が行われた⁵。

おわりに

今回でCR-1グランプリは3年目を迎えるが、応募数は横ばいで推移しているものの、全国各都市からの応募があり、地域的な広がりを見せている。また、月尾選考委員より、研究内容が年々向上しており、この制度が次第に認知されているとの講評をいただいている。

今後も当センターとしては、CR-1グランプリ等を通じて、都市自治体の調査研究能力の向上に寄与していきたいと考えているので、皆様の積極的な参加を期待している。

（研究員 高橋 清泰）

2013年度も、第4回都市調査研究グランプリの募集をいたします。皆様からのご応募お待ちしております。詳しくは79ページをご覧ください。

⁴ 各調査研究の研究概要と講評については、71～76ページに掲載

⁵ 表彰式の様子については当センターホームページにて紹介している。